

News Release

報道関係 各位
【イベント開催報告】

2024年10月3日

青年技術士支援委員会 遊び心でイノベーション！時代を超えて役に立つ創造力を磨く 仕掛学 × IoTワークショップ 対面開催にて大盛況で終了！

公益社団法人日本技術士会青年技術士支援委員会(村上玲委員長)は、9月21日(土)に、株式会社奥村組のクロスイノベーションセンターにおいて、技術士コンピテンシー(資質・能力)の向上を目的とした「遊び心でイノベーション！時代を超えて役に立つ創造力を磨く仕掛学 × IoTワークショップ」を開催しました。本イベントでは、遊び心を活かして人々の行動の選択肢を増やすことで行動変容を促す「仕掛学」の理解を深めるため、講義を通じて基礎知識を学びました。その後、「アンケートに答えたいような仕掛け」をテーマに、「仕掛学」と「IoT」を組み合わせたワークショップを行いました。45歳以下の33名の技術者が参加し、大盛況のうちに終了しました。

イベント詳細

本イベントは、参加者の交流を深めるため、マイブームや自分の身の回りにある仕掛けの紹介を含む自己紹介を行い、和やかな雰囲気スタートしました。

講義セクションでは、遊び心を活かして人々の行動の選択肢を増やす「仕掛学」について学びました。仕掛けの要件である公平性、誘引性、目的の二重性について学習しました。次に遊び心が反映された仕掛けの事例や、誘引性は高いが公平性が満たされなかった「悪い仕掛け」の紹介があり、「仕掛学」の理解を深めました。

ワークショップ・セクションでは、会場であるクロスイノベーションセンターについて、利用者が「アンケートに答えたいような仕掛け」をテーマに、連想ワードフレームワークを用いて、仕掛けを着想しました。

次に、着想した仕掛けについて、仕掛けの要件である公平性、誘引性、目的の二重性の内容や、仕掛けられる人の行動の変化を「仕掛けのからくりシート」というフレームワークに落とし込み、仕掛けのコンセプトを整理しました。

最後に、リーンキャンバスをベースとした「シカケ・キャンバス」というフレームワークを用いて、実現方法、設置場所、効果測定方法、コストと収益を検討し、仕掛けの実現性について確認を行いました。

更に、一般社団法人ifLinkオープンコミュニティ様にご協力いただき、誰でも簡単にセンサと出力デバイスを組み合わせてIoTサービスを実現できるifLinkシステムを活用し、着想した仕掛けをどのように実現できるかを考察しました。特に効果測定の面で、ifLinkの“IF(条件)”と“THEN(アクション)”のツールの有効性を確認しました。

参加者からは、「組み合わせで新しい発想を得るツールを獲得できた」「明日から使えそうな仕掛けが見つかった」といった感想をいただきました。また、仕掛学とIoTの組み合わせによって創造力の向上を実感すると同時に、異なる分野の技術者が協力することで新たな価値が生まれることを、今回のワークショップを通じて学ぶことができた、という声も寄せられました。

※ifLinkは東芝デジタルソリューションズ株式会社の登録商標です



講義の様子



グループワークの様子



集合写真

【本イベントに関するお問い合わせ】

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会 委員長 村上 玲

委員会内広報グループ：山本直樹E-mail：pr@peyec.jp ※取材の際は左記までお問い合わせください。

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会とは？

公益社団法人 日本技術士会は技術士制度の普及・啓発に取り組んでいる唯一の全国組織です。当会は、日本技術士会内に設けられた委員会組織で、45歳以下の技術士、技術士補、修習技術者から構成され、若手技術士に向けた研鑽事業の企画・実施・支援をしています。

